

## 古川孝順先生退職を記念して 古川孝順先生に感謝とお礼とお願い

鈴木 哲郎\*

私は古川先生に社会学部とライフデザイン学部にあつて、12年間お世話になりました。特に平成15年11月に古川先生から新学部・学科の設置委員にご指名（辞令は16年1月1日でした）いただき、現在まで叱咤激励をいただきながら、ライフデザイン学部の発展に努力したつもりですが、力及ばず先生にご迷惑をおかけしたまま先生の定年退職を迎えることになってしまいました。年齢で規定する決まりごとである退職であることは承知しておりますが、ライフデザイン学部の牽引者としてまだご指導いただきたく思っております。

古川先生がライフデザイン学を構想なさった根本には既存学部がない『課題解決的、実践志向的な方向』と『既存の学問を横断的、学際的に取り入れ、複合科学さらには融合科学としての方向』を基本に『人びとの生活支援、健康、環境の3つの視点と枠組みから、学際、複合、融合科学的に把握して社会生活に生起する問題を解決、緩和する知識・技術解明し、対応する』学問を研究・教育する学部であると理解しております。「ライフデザイン学部が21世紀のこれからの社会と生活を見据えつつ、大学における新しい研究と教育を追求してきたか」と考えると、構想のように進んでいないと思います。これは私たちの力不足、努力不足に尽きると考えています。このようなことを退職の折に申し上げることには躊躇しましたが、先生の退職を機に、ライフデザイン学部教員がもう一度、原点に立ちかえりこの構想に則った研究・教育を考え、新たな出発にしなければならないと思っています。とかく、学部の設置のコンセプトを無視する傾向があります。そのようなときには、先生からのアドバイスを頂きたいと思っております。また、いつまでも見守りいただけるようお願い申し上げます。原点に帰りライフデザイン学を構築していくことが、ライフデザイン学部には所属している教員の責任であると思っています。

ライフデザイン学の構想の教育実践のひとつとして誇れる韓国現場研修については古川先生のご尽力によるところが大変に大きく、先生ご自身も寄せる思いは格別だったのではないかと考えています。韓国現場研修は社団法人韓日福祉経営協議会とライフデザイン学部との連携に関する協定に基づき『福祉における人的・知的資源等の交流・活用を図ること、また日韓の社会福祉の発展に寄与するとともに、日韓の更なる友好関係を築く』ことを目的に実施しています。私も第1回目から参加させて頂き、平成21年の第4回韓国研修はインフルエンザの世界的流行でシンポジウムが中止になり、参加しませんでした。その後も昨年まで韓国現場研修に参加させて頂きました。研修に同行した教員を中心に韓日福祉経営協議会のご尽力を頂き、毎回シンポジウムが開催されました。同じライフ

---

\* 東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 Toyo Univ. Faculty of Human Life Design  
連絡先：〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

デザイン学部教員でありながら学科が異なるために、どのような研究をなさっているのかを知らずにいましたが、シンポジウムを通じて先生方の研究を初めて詳しく知ることができました。本来は、日常の活動の中で知っておくべきことですが、韓国研修のシンポジウムで知ることになったのは学生だけでなく教員も大きな恩恵を受けました。私も韓国研修をきっかけに、人間環境デザイン学科の米田先生と「電動アシスト付4輪車が身体に与える影響について」の共同研究ができました。これは、古川先生が韓国との研究協力シンポジウムに3学科の教員を参加させ共同研究を進めさせることも考えていたからではないかと思っています。

韓国現場研修では学内とは別の古川先生を知る機会を得て、改めて先生の「大きさ」に感激いたしました。シンポジウムで古川先生の講演を聞かせていただく機会もあり、その感をいっそう強くいたしました。

研修は韓国文化の世界遺産見学あるいは韓国と日本の過去の歴史を知るため、日本が韓国を植民地化し政治犯を収監してきた監獄見学をし、韓国への歴史認識を正しく行っただうえで、ヨンコンマウルでの現場研修、ホームステイ、長安大学学生との交流会など学生にとっては大変に充実した研修になっていると思います。また、研修の最後の夜に、ヨンコンマウルの金覚賢理事長のご好意でガーデンパーティを開いていただき、古川先生が普段大学ではお見せにならない、陽気さで、学生と古川先生とのほのほとした交流は韓国研修に参加した学生に与えられた特権のような気がしました。「ムー順(ジュン)先生」、これは参加した学生の古川先生に対しての呼び名になります。ムーミンと先生のお名前を一字頂いての先生への愛称です。参加した学生たちが研修時に着るTシャツ(学生が自主的に作成)には先生の似顔絵とともに愛称が書かれています。韓国研修は4泊5日と大変に短い期間ですが、参加した学生が古川先生の魅力にみせられ、研修に尽力いただいていることへの感謝をこめて「ムージュン」の愛称を使わせていただいています。平成18年以来、毎年行われてきた研修に参加した学生たちの申し送り(伝統というべきかも知れません)です。

先生には感謝とお礼を言い尽くせませんが、お願いがあります。「運動は嫌いだ」とおっしゃらずに、運動不足を解消(毎日、普通の歩き方で1時間半から2時間:距離にして8~10kmの歩行)をされて、120歳(ヒトの最長寿命)まで元気にお過ごしいただき、いつまでも私たちの行く方向をチェックしていただき、修正のアドバイスをいただきたいと思います。社会学部時代も含めて12年間、先生にはご迷惑をおかけし、お世話になりました。ありがとうございました。